



平成24年の年頭にあたって

新年明けましておめでとうございます。

新春にあたり、皆様方の本年の御多幸を心より御祈念申し上げます。また、日頃より本県の水産行政および試験研究業務に深い御理解と御協力を頂いておりますことに対し深く感謝申し上げます。

昨年は、東日本大震災という未曾有の大災害に見舞われ、津波の怖さを思い知らされるとともに、福島第一原発のメルトダウン事故という史上最悪の事故も併発し、原発集中立地県で沿岸地域に居住する我々にとって、とても他人ごとには思えない災害となりました。また、放射能が海にも大量に放出されたために、福島県沖では漁業が全く出来ない状況になったとともに、全国的にも風評被害による魚の買い控えも問題となりました。このような事態を受けて、水産試験場としても事故時の適切な対応に向けて、放射能の拡散予測にも応用できる沿岸の流れの予測技術の開発や様々な魚介類の分布・移動に関する知見の充実など、多くの課題が出てきたものと考えます。今年はその課題の解決に向けて努力していく所存であります。

さて、一年の計は元旦にありと言いますので、私なりに今年一年の水産業の計画を立てようと考えたのですが、水産業は農業や林業等と異なり天然資源の動向に頼る部分が極めて多く、綿密な生産計画が建て難いのが現状です。しかし、水産試験場では日本海側の各機関と連携した調査により、資源状況の把握と変動要因の解明、海洋環境の把握と動向予測などを行うことで、短期・長期の漁海況予報を行なっています。そこで、これらの予報を基に今年はこうなったら良いなという計画をたててみました。

まず大型クラゲですが、昨年、一昨年ともに東シナ海の春季水温低下の影響もあり日本海への大量来遊はありませんでした。今年も同様の傾向が継続しているようですのでクラゲの来遊は少ないと考えます。また、昨年は太平洋側に加えて西部日本海でまとまったマイワシの漁獲があり、マイワシの復活が期待されます。マイワシは寒冷時に豊漁期となる傾向があり、温暖傾向で北部にシフトしたブリの南下が期待でき、寒ブリ漁の復活が望めます。また、漁場がやや北上傾向になっているサワラやスルメイカも福井沖での漁場形成が長期化することも望めます。大型クラゲが来ずに、サワラ、マイワシ、寒ブリ、スルメイカ等の豊漁となる年になると予測し、的中することを期待しております。

一方、2年前にスタートしました水産施策「ふくい魚、元気な販売戦略」も今年は3年目に入り、正念場の年となってきます。相変わらず魚価は低迷しており、燃油の高騰などの操業コストも下がっていない現状の中、水産試験場として魚価の向上につながる試験研究に積極的に取り組む所存であります。

おわりになりましたが、今年が皆様方にとって良い一年になりますよう、また、本年の操業安全と大漁、さらに、本県水産業界の益々の繁栄を祈念して年頭の御挨拶と致します。

〔漁の様相〕

2011年12月の県内の総水揚量は763tで、2010年同月を274t下回った。サワラ（2011年；158t、2010年；67t 以下同じ）、ケンサキイカ（29t、4t）、セイコガニ（19t、16t）等は上回ったものの、ブリ（41t、78t）、ハマチ（17t、59t）、アカガレイ（80t、118t）、ズワイガニ（41t、47t）等は下回った。

〔漁業種類別の状況〕

定置網 ……全体で前年を35t下回った。サワラ、ケンサキイカ等が上回ったが、ブリ、ハマチ、ツバス、小・豆アジ等が上回った。
 底びき網 ……全体で前年を78t下回った。セイコガニが上回ったが、アカガレイ、ズワイガニ、アカエビ等が下回った。
 釣り・他 ……全体で161t下回った。ケンサキイカ等が上回ったが、ハマチ、アマダイ、スルメイカ等が下回った。

〔県内主要漁業の12月の漁獲量〕

(単位：kg)

定置網			
魚種	2011年	2010年	01-10平均
アジ類	55,591	66,780	58,728
(マアジ)	33,292	30,806	18,945
(小・豆アジ)	21,711	35,408	37,135
サバ類	1,557	1,280	5,491
マグロ類	5,025	3,647	1,190
カツオ類	15,850	44,830	31,477
ブリ	108,944	204,059	55,437
(ブリ)	41,078	78,416	4,402
(ワラサ)	1,223	2,014	752
(ハマチ)	17,409	38,752	13,479
(ツバス)	49,233	84,877	36,804
ヒラマサ	2,961	1,568	8,961
サワラ	157,738	67,259	69,159
マダイ	7,756	13,205	3,463
スズキ	14,816	14,097	9,418
カマス	11,560	2,187	8,079
アオリイカ	9,112	7,440	8,484
ケンサキイカ	10,588	1,558	552
ソデイカ	25,301	17,847	20,733
合計	463,791	498,818	340,465

釣り、延縄、さし網、その他			
魚種	2011年	2010年	01-10平均
アジ類	115	177	225
(マアジ)	55	94	104
(小・豆アジ)	60	83	118
ブリ	3,464	24,083	17,563
(ワラサ)	214	73	222
(ハマチ)	23	20,693	12,759
(ツバス)	3,134	3,302	4,524
マダイ	1,976	3,722	3,842
キダイ	4,111	4,433	3,688
アマダイ	6,097	8,094	9,502
スズキ	610	723	616
ヒラメ	1,257	1,696	1,961
アナゴ	320	234	360
メバル類	933	703	1,147
スルメイカ	24	138,798	176,167
アオリイカ	1,193	1,236	1,447
ケンサキイカ	18,358	1,074	900
ソデイカ	4,323	8,484	13,293
タコ類	7,996	6,154	9,017
合計	69,025	230,460	279,949

底びき網			
魚種	2011年	2010年	01-10平均
キダイ	11,335	12,247	10,707
アカガレイ	79,726	118,451	85,792
その他カレイ	17,506	18,444	15,162
アナゴ	3,144	2,871	4,617
タコ	5,901	6,049	5,428
ズワイガニ	41,093	47,475	46,149
セイコガニ	18,585	15,711	27,053
アカエビ	2,651	21,373	11,792
その他エビ	4,046	5,948	5,399
合計	230,168	307,698	289,344

総計	2011年	2010年	01-10平均
	762,984	1,036,976	925,595

※“()”は銘柄別の漁獲量
 ※”その他カレイ”はアカガレイ以外のカレイ類
 ※”その他エビ”はアカエビ以外のエビ類

〔近府県の漁様相〕

(漁獲状況…石川県；12/1～12/31の定置網漁獲量合計。京都府；12/11～1/10の定置網漁獲量の漁獲量合計。兵庫県；12/17～1/20の余部・定置網漁獲量合計。鳥取県；12/1～12/31の1統あたりの漁獲量。)

石川県…… 定置網 …… ブリ10.7t、マサバ10.6t、ソウダカツオ8.7t、マアジ5.0t
 京都府 …… 定置網 …… ハマチ・ツバス5.4t、サワラ4.4t、マアジ1.6t、ケンサキイカ420kg。
 兵庫県 …… 定置網 …… マアジ122kg、サワラ66kg、ツバス13kg、ブリ13kg。
 鳥取県 …… まき網 …… マサバ59.0t、マアジ39.5t、マイワシ1.3t、ブリ類1.3t。

(鮎川 航太)

〔海の状況 (12/21~1/20) 〕

神子表面水温……今期間は一部かなり高め(過去30年平均より1.0~1.5℃程度高め)の日がみられたが、概ね平年並み(過去30年平均0.5℃程度)で推移した(図1)。

米ノ表面水温……今期間は一部かなり低め(過去15年平均より1.0~1.5℃程度低め)の日がみられたが、概ね平年並み(過去15年平均0.5℃程度)で推移した(図2)。

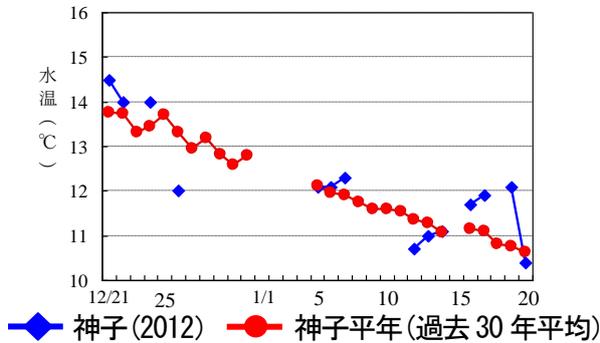


図1. 若狭町神子地先における表面水温の推移

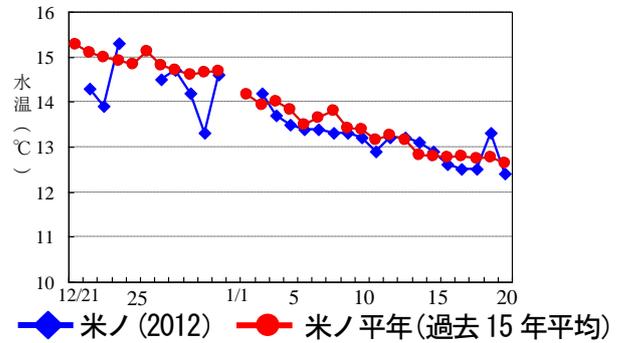


図2. 越前町米ノ地先における表面水温の推移

ブリ漁模様について

今期の寒ブリ漁も大詰めを迎え、12月の本県及び近隣府県の漁獲量が出そろいましたので、ブリの漁獲状況についてご紹介します。

本県における2011年12月のブリ銘柄漁獲量(定置網漁業)は41.1 t (2010年同月: 69.7 t、2009年: 0.5 t、2008年: 3.9 t、2007年: 3.1 t、10年平均: 11.8 t)となっており、2010年には及ばないものの平年を大きく上回る結果となりました。

なかでも、12月12日に約3,000本(約24t)という大漁のあった小浜市場では、12月のブリ銘柄漁獲量は28.1tと全体の7割近くを占めていました。

また、1月に入ってもまとまった漁獲があったとの情報はなく、1月1~20日までの漁獲量(速報データ)は約1 tとなっています。

近隣府県の定置網漁業における2011年12月の漁獲量については以下のようになっており、京都府を除き前年を上回る結果となっています。

○京都府(舞鶴漁連水揚げ速報値)

ブリ(4kg以上)及びマルゴ(2.5~4kg)銘柄 37.7 t (前年同月: 41.1 t)

○石川県

ブリ銘柄(概ね5kg以上) 320.4 t (前年同月: 182.1 t)

○富山県

ブリ銘柄(概ね6kg以上) 73 t (前年同月: 59 t)

○新潟県

大ブリ銘柄(7kg以上) 590.2 t (前年同月: 82.1 t、5年平均: 59.1 t)

中ブリ銘柄(4~7kg) 53.0 t (前年同月: 13.4 t、5年平均: 10.1 t)

小ブリ銘柄(1.7~4kg) 157.9 t (前年同月: 3.0 t、5年平均: 2.8 t)

すでに操業を終了しているもしくはこれから終了予定の定置網がほとんどかと思いますが、春以降の漁獲に期待したいところです。

国内で新たに発見された海産魚介類の病気に関する最新情報

アワビに、これまで国内未侵入とされていた病気が発生しましたので、ご紹介します。

【アワビのキセノハリオチス症】

昨年3月に、鳥取県^{※1}の種苗生産施設で、キセノハリオチス症（OIE リスト疾病^{※2}）が発生しました。この病気は、細胞内寄生細菌（リケッチア）*Xenohaliotis californiensis*を原因とし、アワビ類に摂食障害や衰弱、足筋の萎縮、死亡などを引き起こします。1980年代に米国で発生し、発症水温は18℃以上です。死亡率は水温やアワビの種類によって異なりますが、最大で99%にも達するという大変怖い病気です（アワビ類以外の魚介類や人には感染しません）。

これを受けて、福井県でも県内で飼育されているクロアワビ種苗（中間育成種苗を含む）と天然アワビ類の調査を実施し、感染していないことを確認した上で、放流を実施しています。

水温の上昇期には特にアワビの育成状況に注意していただくとともに、通常の死亡率を短期間で上回るような大量死がみられた場合は、すぐご連絡いただきますようお願いします。

- ※1 鳥取県は、感染が確認された水槽で飼育されていたクロアワビとその親貝を全て焼却処分するとともに、当分の間種苗の移動を自粛しています。
- ※2 OIEは国際獣疫事務局。家畜の伝染性疾患の伝播を防ぐための情報交換や研究協力を目的とする国際機関。疾病の社会的重要性、蔓延性、診断の面から勘案してリスト疾病を定めている。

養殖ヒラメを食べたことによる原因不明の食中毒の原因がわかりましたので、ご紹介します。

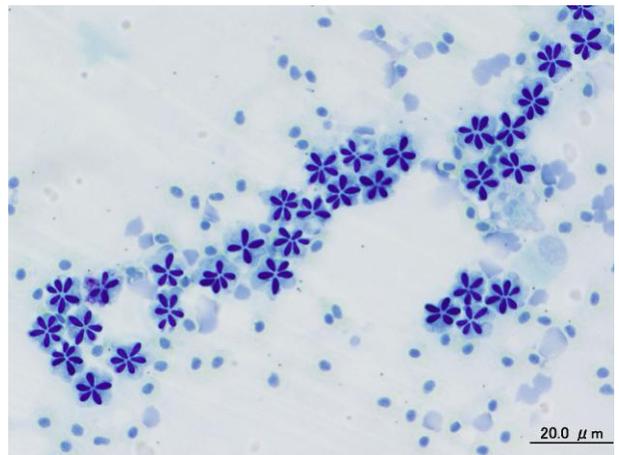
【ヒラメの新種クドア症】

昨年、6月17日の厚生労働省からの通知により、養殖ヒラメなどを食べたことによる有症事例（食後数時間程度で一過性の嘔吐や下痢がおこるが、軽症で終わる原因不明の事例）が報告された場合には、食中毒として取り扱うことが公表されました。これは、問題になっている有症事例を調べたところ、ヒラメを食べた後に起こったケースが多いこと、そのヒラメの多くが筋肉に寄生する粘液胞子虫 *Kudoa septempunctata*（以下新種クドア）に感染していたこと、動物を用いた試験で病原性が確認されたことによるものです。新種クドアは、ブリで白い米粒状のシストを形成したり、ヒラメでゼリーミートを起こしたりする既知のクドアとは異なり、肉眼では分かりません。

どれくらいの量を食べるとそのような症状を示すのかまだ分かっていませんが、新種クドアの寄生率はそれほど高くなく、頻繁に発生することは考えられないと言われています。また、病原性を失活させるには、-15℃~-20℃で4時間以上冷凍するか、中心温度75℃で5分以上加熱することが有効とされています。

新種クドアが寄生したヒラメの食中毒を防止するために、国を中心に各県が協力し、寄生ルートの解明のための研究と養殖場における出荷前の検査が実施されています。種苗を導入する際は、できる限り詳細な情報を入手し、検査を実施することが病気の侵入を防ぐ第一歩です。

引き続き、養殖業者のみなさんと連携して取り組んでいきたいと思っておりますので、ご協力いただきますようお願いいたします。
(渡 智美)



Kudoa septempunctata (メチレンブルー染色)
独立行政法人水産総合研究センター提供